

□県労福協「3.11 東日本大震災被災地視察」

東日本大震災から3年8ヶ月が経過しましたが、未だに仮設住宅で約4万戸・8万5,000人、民間賃貸借上・公営住宅等で約3万6,000戸・8万4,000人(岩手・宮城・福島3県 11月30日現在統計)が避難生活を送っており、被災地での復興・再生は遅れています。

県労福協は理事・監事10名で2014年11月19日(水)～21日(金)の3日間の行程で福島県を視察。

1日目は福島県労福協・今泉会長「福島県の現状報告」、福島県復興・総合計画課・阿部主幹「ふくしま復興の歩み」の説明と意見交換。

2日目は被災地視察 福島市・JA新ふくしま(農産物の放射性物質検査場・直売所)～飯舘村(除染作業)～浪江町(請戸港請戸小学校・慰霊碑 瓦礫処理)～JR常磐線(盤城太田付近20Km通行止めを視察)を視察しました。

ラコパふくしま



連合福島・福島県労福協・福島県生協連・東北労金福島県本部・UAゼンセン福島県支部・電機連合福島地方協議会などの団体が入居

ラコパふくしま案内板





福島県労福協からの説明

左から福島県労福協・林事務局長/東北労金福島県本部・遠藤専任役/全労済福島県本部・栗城本部長/福島県労福協今泉会長/東北労金福島県本部・小林本部長



福島市・JA新ふくしま農産物の放射性物質検査場
農産物放射能検査に使用するモニタリング装置の
説明を行うJA新福島職員



農産物の放射性物質検査器具
1台150万円から数百万円するモニタリング装置



「ふくしま復興の歩み」について説明する

福島県復興・総合計画課 主幹 阿部秀宏さん



農産物の放射能処理について説明を受ける視察団



JA新ふくしま農産物直売所「こころ」外観



JA 新ふくしま農産物直売所内「こころ」

豊富な新鮮野菜が並んでいて、買い物客であふれていた



住宅地で行われていた除染作業現場



津波被害にあった浪江町住宅地



飯舘村除染作業現場

汚染処理物が至る所に山積みされていた



除染作業で除去した土などを入れた

フレコンバックの袋が山積みされていた



瓦礫処理が間に合わず、至る所に漁船や自家用車などの瓦礫が山積している



大型重機で瓦礫処理が今も行われており、
選別処理後は別の場所に運ばれる



瓦礫の選別作業が続く請戸小学校



現場の設置された慰霊碑(正面)と
処理が間に合わない瓦礫の山



津波の被害にあった請戸小学校



道路の片隅に積まれた瓦礫の山、道路は瓦礫処理で
大型ダンプカーが行き来している



J R 常磐線 常磐太田付近で20Km 通行止めを視察